

整理番号	44-22	事務事業名	(芸術文化推進事業) 北広島市文化団体振興事業	作成部署	生涯学習部 社会教育課	電話	内線889
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 山内平一郎	課長職名	可児正樹	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S52	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則				
〃 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	市内で芸術文化活動を進める団体の連合体である北広島市文化連盟の発足により、その育成・支援を目的に開始した。						

## 1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐむまち	(第4章)
	節	芸術と文化	(第4節)
	施策	芸術文化活動の振興	(第1施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	文化団体(72団体)及び市民	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	各地区における文化団体と密接な連携のもとに、北広島市文化の振興を図り自主的な文化活動を促進し、もって情操豊かな文化都市の実現に寄与することを目的とする。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	【北広島市文化連盟の活動】 文化振興対策の実施及び計画 加盟団体相互の連絡協議に関すること 加盟団体の育成に関すること 石狩管内市町村との文化交流 会報の発行 その他文化連盟の目的達成に必要な事業
		17年度	同上

## 2 実施(ドウ)

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	360	342	330	330
	合計	360	342	330	330
人件費(概算)	人数(年間)	0.002	0.002	0.002	0.002
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	18	18	18	18
総事業費 +		378	360	348	348

## 【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会員数(人)	760	760	780	780
	文化連盟実施事業数(件)	3	4	5	5
	連絡協議会等の開催数(回)	73	66	70	70
	会報発行回数(回)	1	1	1	1
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	事業参加者総数(人)	2,478	3,492	4,000	3,500
	会報発行部数(部)	2,000	2,000	1,200	1,200
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	事業参加者1人あたりのコスト (総事業費 / 事業参加者総数)	¥153	¥103	¥87	¥99
	会員1人当たりのコスト (総事業費 / 会員数)	¥497	¥474	¥446	¥446

**3 評価(チェック)と改善(アクション)**

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	石狩管内において同様の団体は各市町村にあり、それを束ねる石狩管内文化団体協議会がある。住民にとって身近な団体であるため、質・量ともにより充実させていくことが課題。
---------------------------------	---

**【妥当性の評価と改善の方法等】**

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありますか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	文化行政を推進していくうえで、市民で構成される文化連盟との連携は、市民と行政の協働の観点からも妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市内における多くの各種文化団体を把握した文化連盟への補助は文化振興の観点からも妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	より多くの市民に対し文化に触れ合う機会を創出させていくとともに、作品制作主体者は市民の手によるものであり、文化活動の発表機会の提供の観点からも適切と考える。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

**【有効性と効率性の評価と改善の方法】**

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	文化の振興度合いを測定することは困難であるが、文化事業にどれだけ多くの市民をが参加したかにより判断した。	質の高い文化をはじめ、北広島の独自性の創出、幅広い年代層の参加など、充実を図る必要がある。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市民に対する文化のふれあいを度合いとして算出した効率指標から考慮すると比較的廉価であると考え。	より多くの市民を(人員的・年代層的等の見地から)参加させる手法を講じていくことでより効率性が高まる。

**【事務事業担当部局内優先度】**

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A          B          C

**4 総合判定と今後の方向性**

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	北広島市文化連盟は、文化関係の団体によって構成される本市唯一の連合組織であり、本市における芸術分野の振興を図る上で、今後とも継続して支援していくことが必要である。 また、質の高い文化、北広島としての独自性、幅広い年代層の参加、文化の活動領域の多様化に対応するため、質・量の充実をはじめあらゆる手段を検討していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり

## 付 表

## 補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	44-22
------	-------

## 【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島市文化団体振興事業補助金		
交付先の名称及び代表者名	北広島市文化連盟 会長 金田孝次	設立年	昭和48年
構成員(団体)数	72団体 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	各地区における文化団体と密接な連携のもとに、北広島市文化の振興を図り自主的な文化活動を促進し、もって情操豊かな文化都市の実現に寄与することを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	文化振興対策の実施及び計画 加盟団体相互の連絡協議に関すること 加盟団体の育成に関すること 石狩管内市町村との文化交流 会報の発行 その他文化連盟の目的達成に必要な事業		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

## 【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	360	342	330	
	会費	216	87	84	
	自己資金	0	408	166	
	雑収入	70	14	0	
	繰越金	41	104	104	
	<b>収入合計(B)</b>	<b>687</b>	<b>955</b>	<b>684</b>	
支 出	報償費	40	297	170	
	旅費	61	60	60	
	消耗品費	8	32	30	
	印刷製本費	161	117	110	
	役務費	77	79	80	
	使用料及び賃借料	5	48	50	
	文化振興費	135	100	100	
	その他(団体庶務費)	96	118	84	
	<b>支出合計(C)</b>	<b>583</b>	<b>851</b>	<b>684</b>	
繰越金	<b>収入(B) - 支出(C)</b>	104	104	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		62 %	40 %	48 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		団体庶務費を除く 全ての経費(事業費)	団体庶務費を除く 全ての経費(事業費)	団体庶務費を除く 全ての経費(事業費)	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		487	733	600	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		74 %	47 %	55 %	
補助・交付金の算出根拠	定額(平成15年度:360千円、平成16年度:342千円、平成17年度:330千円)				